

かがやき

「逃げて負けるのはイヤなので、
びびってでも挑戦します」
スノーボードカービング・平野歩夢選手



強さと優しさと・・・



昨夏の東京オリンピックから半年、冬季オリンピック北京大会が開幕しました。

東北地方といっても温暖ないわき市では、普段はウィンタースポーツに興じることはなく、雪上や氷上とは思えない選手たちのパフォーマンスに驚くとともに、感動するばかりですね。

さて、オリンピックが開幕して数日、思うことがありました。「人の強さと優しさ」についてです。

選手たちは、前回のオリンピックから4年もの間(もっと前からの選手もいるでしょうが・・・)ただひたむきに、夢を現実のものとするために練習を重ねてきたことでしょう。言葉にするとあまりに簡単に申し訳ないほどですが、血のにじむような努力を続けてきたことと思います。そして、つかんだオリンピックの晴れ舞台。

しかし、『スキージャンパーのスーツ違反』『フィギアスケート選手の氷上の穴』『スノーボード選手の転倒と失格』など、「こんなことがあるのか・・・」と、選手を襲う、運命のいたずらとも言える出来事に胸が痛みます。

そんな悲運に見舞われてなお、選手たちは強く、優しいです。



混合ジャンプ競技において、チームの1番手として登場した高梨沙羅選手は、1本目に大ジャンプを跳びましたが、喜びも束の間、着用していたスーツが違反と判定されてしまいます。チームを思い、責任を感じて号泣する高梨選手でしたが、まだ2本目のジャンプが残されています。私は安易に「こんなにショックを受けている中で、跳べるわけないのに・・・。」と思ってしまいました。

ところがです。高梨選手は、「最後まで跳びます。」と2本目に挑んだのです。またもや、大ジャンプでした。その直後に泣き崩れる姿が映し出され、彼女がぎりぎりの精神状態の中で挑戦したことが伝わってきました。なんと強い強い精神力なのでしょう。

そして、チームメイトはどこまでも優しい・・・。彼女に寄り添ったり、笑顔で駆け寄り、温かい言葉で励ましたり・・・。

熱戦は続きます。オリンピックに声援を送りながら、あなたの中にもある「強さと優しさ」を、どうぞ見つめてみてください。

日本の伝統

【伝統1】 冬休みの宿題「書きぞめ」— それぞれの力作を教室に掲示しましたが、書きぞめの起源は、平安時代にまでさかのぼります。その頃は宮中の行事でしたが、江戸時代には庶民の間に広まり、現在ではお正月の行事として定着しています。1月2日に「新しい年が良い年となるように・・・」と願いを込めて書く良いとされています。以下は校内書きぞめ展入賞者です。

- (1組) 志賀光希くん、鈴木優日くん、中村わかなさん、小林梨央さん (2組) 宇佐見紘くん、鈴木全くん、鈴木琉愛さん、渡辺ななみさん (3組) 佐野瑠雅くん、佐川楓くん、田仲理紗さん、志賀玲音さん

【伝統2】 音楽の時間に、和楽器・琴の練習をしています。奈良時代に中国から渡来した琴の調べ(音色)は、優雅で美しいものです。しかし、約180cmの台にピンと張られた弦をはじくには、けっこうな力が必要です。現在は、春の訪れを待ち望みながら「さくらさくら」を演奏しています。



来週の予定

～ 来週はテスト週間となります。全力でぶつかれ一年生諸君！！～

14日(月)	15:50 下校	17日(木)	学年末テスト①～⑤	14:50 下校
15日(火)	15:50 下校	18日(金)	学年末テスト①～④	14:50 下校
16日(水)	15:30 下校	14日(月)～17日(木)までテスト前部活動停止期間となります。		